

一級河川太田川水系

三篠川ブロック河川整備計画（変更）

令和2年5月

広島県

# 一級河川太田川水系 三篠川ブロック河川整備計画（変更）

## 目 次

	ページ
1. 三篠川ブロックの概要	1
1.1 ブロックの概要	1
1.2 現状と課題	5
1.2.1 治水に関する現状と課題	5
1.2.2 利水に関する現状と課題	7
1.2.3 河川環境に関する現状と課題	8
2. 河川整備計画の目標に関する事項	11
2.1 計画対象区間及び計画対象期間	11
2.2 洪水による災害の発生の防止又は軽減に関する事項	11
2.3 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項	11
2.4 河川環境の整備と保全に関する事項	11
3. 河川整備の実施に関する事項	13
3.1 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに 当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要	15
3.2 河川の維持の目的、種類及び施行の場所	60
3.2.1 河川維持の目的	60
3.2.2 河川維持の種類及び施行の場所	60
4. 河川情報の提供、地域や関係機関との連携等に関する事項	61
4.1 河川に係る調査・研究等の推進	61
4.2 河川情報の提供	61
4.3 地域や関係機関との連携	61
4.3.1 治水に関する現状と課題	61
4.3.2 利水・環境に関する事項	62
4.3.3 水防災意識社会再構築ビジョンを踏まえた取組	62
4.3.4 その他	63
4.4 社会環境の変化・気候変動への対応	63

# 1. 三篠川ブロックの概要

## 1.1 ブロックの概要

太田川は広島県の西部を流れる一級河川で、水源を中国山地の高峰である冠山（標高1,339m）に発し、途中、柴木川、筒賀川、滝山川、水内川、西宗川等の支川を合わせて東流し、広島市安佐北区可部において南に向い根谷川、三篠川、古川等を合流して広島平野を南西に貫流し、広島市街地の上流端で旧太田川を分派します。旧太田川は京橋川、天満川、元安川、さらに京橋川は猿猴川を分派し広島湾に注いでいます。

その流域面積は1,710 km<sup>2</sup>、幹川流路延長は103kmで関係市町村は4市3町に及び、広島県における社会・経済・文化の基盤をなしています。

三篠川ブロックは太田川流域のうち下流東部に位置し、広島市、東広島市、安芸高田市の3市にまたがります。ブロックは、水源を豊栄池上流の山陵（標高約665m）に発する三篠川のほか、奥迫川、小河原川、関川等の15河川から構成され、総流域面積は274 km<sup>2</sup>、幹川流路延長は42kmとなっています。

三篠川ブロックの位置図を図-1.1.1に示します。

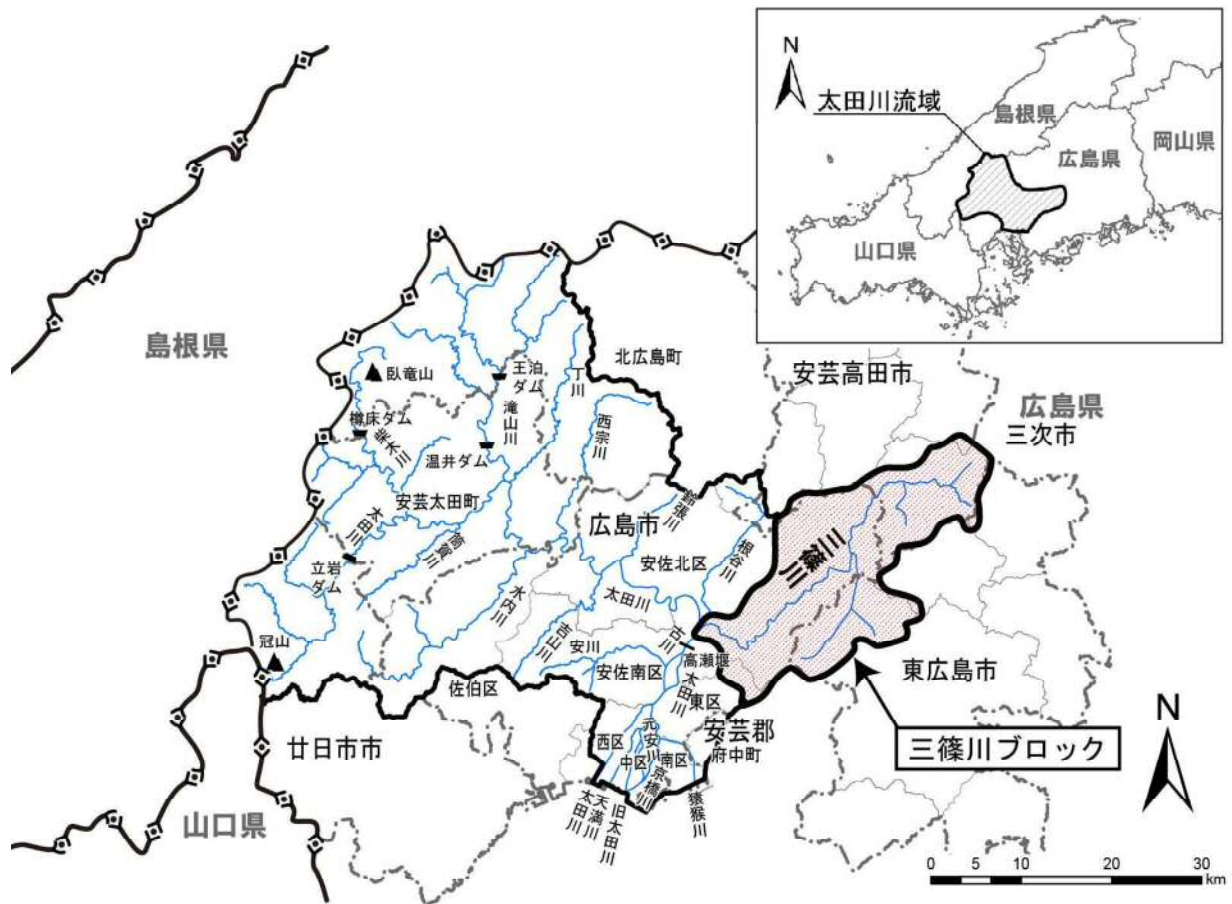


図-1.1.1 三篠川ブロックの位置図

## (1) 流域の自然環境

気候は温暖で降水量が少なく、「瀬戸内気候区」に属し、年平均気温 13～16℃、降水量 1500～2000mm 程度となっており、月別の降水量では秋～春季（11 月～2 月）に少なく、梅雨期の 6～7 月及び 9 月に多い傾向を示しています。

地形は、白木山、大土山、鷹ノ巣山、鬼ヶ城山、安駄山など、標高 700～900m 級の山に囲まれ、大部分を中起伏山地と小起伏山地で占められており、河川沿いには扇状地性低地が僅かに分布しています。また、白木山地には北東－南西方向の構造谷が顕著で起伏は大きく、広島県内ではほとんどみられない大起伏山地が認められます。

地質は、主として流紋岩・花崗岩を主体とした中生代白亜紀の地質より構成されています。他に三篠川中下流に古生代石炭紀～ジュラ紀の堆積物を主体とした地質が、有坂川下流には斑れい岩が分布しています。また、河川沿いには谷底平野・山間盆地・河川・海岸平野堆積物からなる新生代第四紀の堆積岩が分布しています。三篠川の流域低地は下層に礫層をともなう粗粒灰色低地土壌からなり、土壌の透水性は良好で水田利用が行われています。

林相は、コバノミツバツツジーアカマツ群集が主体で、アカマツ群落・コナラ群落・伐跡群落もみられます。白木山ではクリーミズナラ群落がみられます。

## (2) 流域の社会環境

広島市東区、広島市安佐北区、東広島市志和町は、世帯数は増加傾向にありますが、人口は減少傾向にあります。一方、流域の北東に位置する安芸高田市向原町は、世帯数、人口共に年々減少傾向にあります。

土地利用については、三篠川下流付近の広島市東区福田及び安佐北区深川・真亀・亀崎・倉掛・上深川町の一部・上深川駅や狩小川小学校周辺・小河原町の小河原川沿い・狩留家町の狩留家駅周辺が市街化区域に指定され、安佐北区深川町・上深川町・狩留家町・小河原町の一部や東広島市志和町は市街化調整区域に指定されています。その他は農業地域または森林地域に指定されています。三篠川本川及び支川沿川は宅地や耕地として利用され、特に東広島市の志和盆地は農地が広がっています。

主要交通としては、ブロック南部を東西に走る山陽自動車道のほか、三篠川に並行して走る主要幹線として主要地方道 37 号広島三次線、JR 芸備線の 2 系統があります。

三篠川ブロックにおける県管理河川は表-1.1.1, 位置図は図-1.1.2のとおりです。

表-1.1.1 三篠川ブロック管理区間一覧

河川名	区 間		河川延長 (km)	流域面積 (km <sup>2</sup> )	昭和39年制定 河川法 適用年月日	明治29年制定 河川法 適用年月日
	上 流 端	下流端				
三篠川	左岸 東広島市豊栄町大字清武字宮ヶ平 2498 番 3 地先 右岸 安芸高田市向原町大字坂字大津 1920 番 5 地先	太田川への 合流点	42.4	274.2	S.40.4.1 S.43.4.20	T.8.4.1 S.5.2.28 S.38.4.1
奥迫川	左岸 広島市安佐北区高陽町大字中深川字中ノ堂 1176 番 1 地先 右岸 同市同区同町同大字同字 1175 番 1 地先	三篠川への 合流点	0.75	3.4	S.42.6.1	
小河原川	左岸 広島市東区安芸町大字福田字光町 717 番 2 地先 右岸 同市同区同町同大字字向条 4258 番 1 地先	三篠川への 合流点	4.0	17.0	S.40.4.1 S.45.5.1	S.36.6.1
まげ 麻下川	左岸 広島市安佐北区高陽町大字小河原字大谷山 347 番地先 右岸 同市同区同町同大字同字 345 番地先	小河原川への 合流点	2.5	6.5	S.43.4.20	
ゆさか 湯坂川	左岸 広島市安佐北区高陽町大字狩留家字東山 513 番地先 右岸 同市同区同町同大字同字 616 番 1 地先	三篠川への 合流点	3.4	7.9	S.43.4.20 S.45.5.1	
かわつ 河津川	左岸 広島市安佐北区白木町大字市川字正木 789 番地先 右岸 同市同区同町同大字秋山字大槌 3327 番地先	三篠川への 合流点	4.4	14.1	S.40.4.1	S.5.5.1
関川	左岸 東広島市志和町大字奥屋字友貞 1970 番地先 右岸 同市同町同大字字有政 1887 番地先	三篠川への 合流点	13.7	69.5	S.40.4.1	S.5.5.1
はん 半川	左岸 東広島市志和町大字志和堀字阿蔵谷 1999 番地先 右岸 同市同町同大字同字 1755 番地先	関川への 合流点	2.88	4.3	S.40.4.1 S.44.4.1	S.38.4.1
ひがし 東川	左岸 東広島市志和町大字志和東字米山日向 1817 番地先 右岸 同市同町同大字字太刀掛 2607 番地先	関川への 合流点	6.0	20.8	S.40.4.1	S.38.4.1
のりもと 乗本川	左岸 東広島市志和町大字志和西字花基山 1153 番地先 右岸 同市同町同大字字壺之山 644 番地先	関川への 合流点	1.0	2.9	S.43.4.20	
かんむり 冠川	東広島市志和町大字冠字檜室 315 番 1 地先の檜室中橋	関川への 合流点	1.72	3.1	S.40.4.1	S.38.4.1
えいどう 栄堂川	左岸 広島市安佐北区白木町大字志路字丑寅 3042 番 3 地先 右岸 同市同区同町同大字字横谷 2886 番 2 地先	三篠川への 合流点	8.9	24.5	S.40.4.1 S.44.4.1	S.26.1.6
みさか 見坂川	左岸 安芸高田市向原町大字保垣字平岩 1402 番地先 右岸 同市同町同大字同字 1401 番地先	三篠川への 合流点	5.4	18.1	S.40.4.1	S.23.4.1 S.38.4.1
有坂川	左岸 安芸高田市向原町大字有留字振ヶ谷 2461 番 2 地先 右岸 同市同町同大字字油免 2203 番地先	見坂川への 合流点	3.5	7.1	S.40.4.1	S.38.4.1
おおつち 大土川	左岸 安芸高田市向原町大字坂字水野内 589 番 3 地先 右岸 同市同町同大字字大寺山 456 番 2 地先	三篠川への 合流点	1.4	5.7	S.40.4.1	S.38.4.1

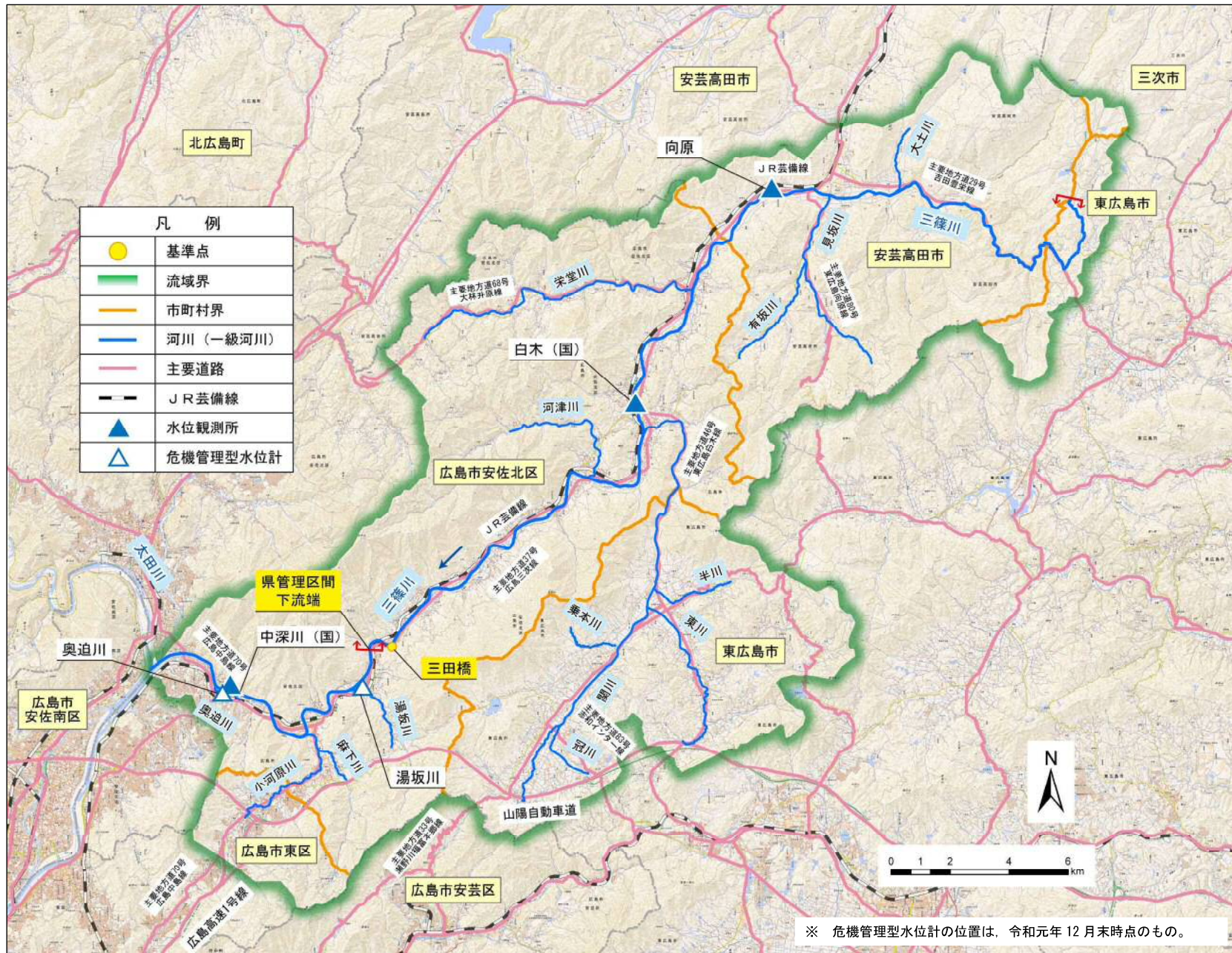


図-1.1.2 三篠川ブロック河川位置図

## 1.2 現状と課題

### 1.2.1 治水に関する現状と課題

三篠川ブロックにおいては、過去に昭和40年6月洪水、昭和47年7月洪水による大規模な被害が発生しています。このため、洪水被害の解消を目指して長年にわたって治水安全度の向上を図り、被害の大きかった河川を中心に河川改修が進められています。

しかしながら近年においても、平成26年8月の台風12号による床下浸水8戸の浸水被害や、平成30年7月の豪雨による落橋被害や浸水戸数343戸の浸水被害等が発生しています。

このため、上・下流のバランス、本・支川の整合など水系一貫の観点に立ち、適切な安全度を有する新たな治水計画の策定と洪水防御対策の早期実施が課題となっています。

過去の主な洪水とその被害状況を表-1.2.1に示します。また、これらの浸水箇所及びこれまで整備されてきた河川改修事業の状況を図-1.2.1に示します。

表-1.2.1 過去の災害発生状況

被害発生年月日	降雨の原因	24時間雨量(mm)	市町村	被害状況
昭和40年6月20日	梅雨前線豪雨	265	こうよう 高陽町	床上浸水420戸 農地浸水300ha
昭和47年7月11日	梅雨前線豪雨	199	しらき 白木町	家屋全壊3戸、家屋半壊2戸 家屋一部損壊2戸 床上浸水49戸、床下浸水236戸
昭和58年9月26日	台風10号	146	広島市	床上浸水1戸
昭和60年6月21日	梅雨前線豪雨	178	広島市	農地浸水0.5ha
平成9年5月14日	前線	86	東広島市	床下浸水20戸
平成11年6月29日	梅雨前線豪雨	161	向原町	床下浸水5戸
平成17年9月6日	台風14号	160	広島市	床下浸水5戸、床上浸水1戸
平成26年8月6日	台風12号	129	東広島市	床下浸水8戸
平成30年7月6日	梅雨前線豪雨	308	広島市	JR橋梁を含む6橋で落橋等 家屋浸水343戸 浸水面積234.5ha

被害状況：昭和40年6月洪水「中国新聞（昭和40年6月21日付）」より

昭和47年7月洪水「昭和四七年七月豪雨災害誌（建設省中国地方建設局）」より

昭和58年～平成11年「河川浸水被害履歴調査（平成12年実施）」及び聞き取り調査より

平成17年9月洪水「平成17年版水害統計（国土交通省 河川局）」より

平成26年8月洪水「平成26年版水害統計（国土交通省 水管理・国土保全局）」より

平成30年7月洪水 氾濫シミュレーション結果より

24時間雨量：昭和40年～昭和47年 流域平均雨量（三田橋地点）/昭和58年～平成11年 東広島市気象台  
平成17年～平成30年流域平均雨量（三田橋地点）

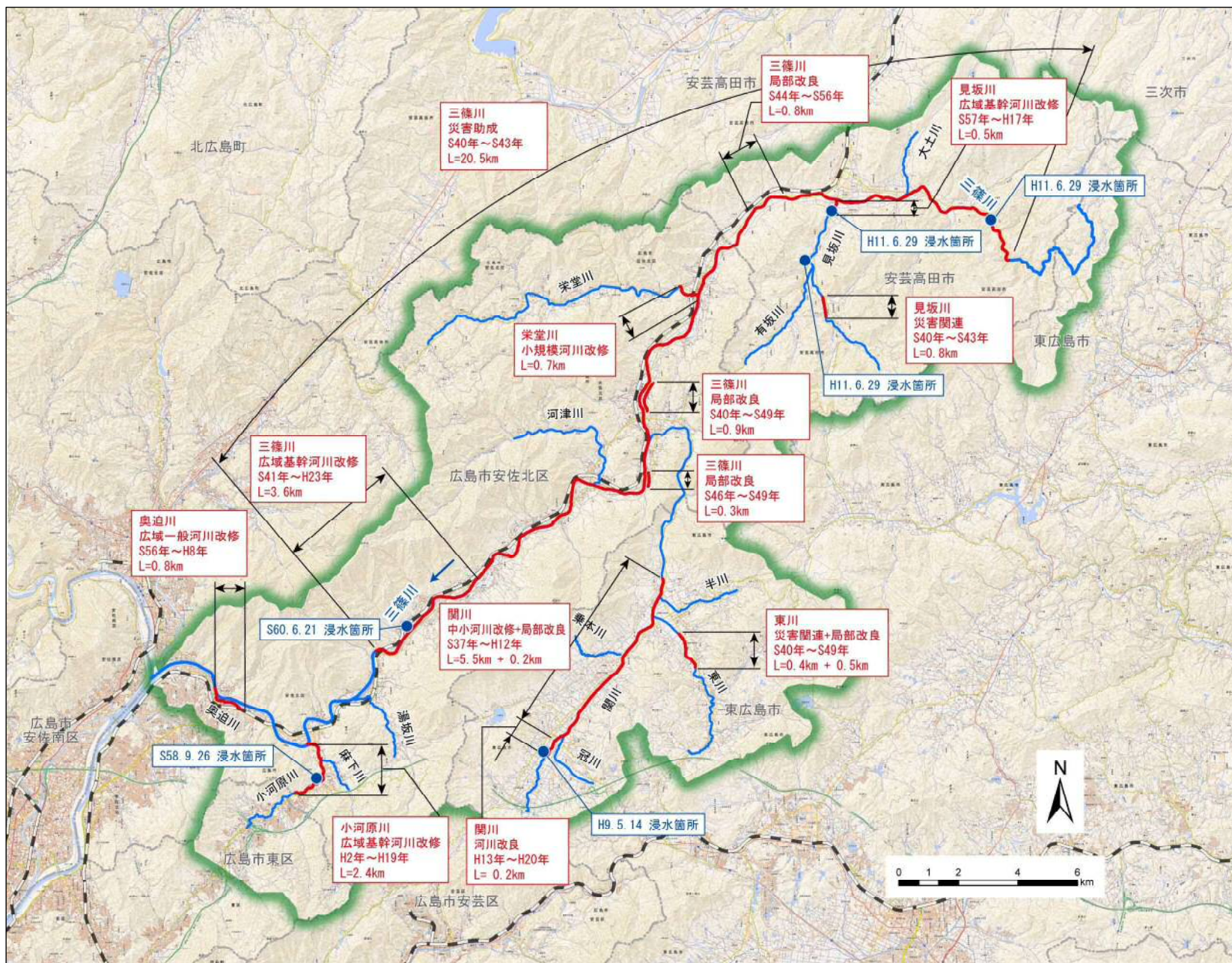


図-1.2.1 浸水箇所及び河川改修事業位置図



## 1.2.2 利水に関する現状と課題

三篠川ブロックの水利用は、かんがい用水としては、慣行と許可を合わせて沿川の約900haの農耕地に209件の取水施設から最大4.566m<sup>3</sup>/sの利用がなされているほか、発電用水として最大使用水量1.066m<sup>3</sup>/sの利用がなされています。

かんがい用水については、近年の都市化によるかんがい面積の減少にともない、利用量が年々減少する傾向にあります。

異常渇水となった平成6年は、流量は例年に比べて少なくなったものの、地域住民の生活、農作物、動植物の生息・生育環境等に大きな影響を与えるような事態に至っていないことから、河川流況は比較的良好であると考えられます。

三篠川の<sup>なかほらばし</sup>中原橋観測所の流量観測に基づく流況は表-1.2.2のとおりです。

表-1.2.2 流況（日平均） (m<sup>3</sup>/s)

地点	流量	豊水	平水	低水	渇水	最小	流域面積	備考
中原橋 (三篠川)	平均流量	5.21	3.13	2.17	1.32	1.05	185.0 km <sup>2</sup>	S56～H30
	各流況の 1/10 流量	3.33	2.17	1.55	0.61	0.40		

注1：豊水：1年のうち、95日これらを下らない流量。

平水：1年のうち、185日これらを下らない流量。

低水：1年のうち、275日これらを下らない流量。

渇水：1年のうち、355日これらを下らない流量。

注2：1/10流量とは、「10年に1回程度発生する流量」を示しています。各流況（豊水～最小）は、観測所の観測結果から、各年に1つずつ決まります。

### 1.2.3 河川環境に関する現状と課題

三篠川ブロックの沿川は山間の農業集落を形成しており、牧歌的な田園風景も多く残されているほか、貴重な動植物も生息・生育しています。このため、良好な景観や動植物の生息・生育環境を保全していく必要があります。

以下に三篠川ブロックの河川環境の現状と課題について示します。

#### ① 水質

三篠川ブロックでは 15 河川のうち、4 河川 8 地点で水質測定が行われ、うち三篠川本川で環境基準の指定がされています。

三篠川本川の環境基準は、A 類型（BOD75%値 2.0mg/ℓ以下）に指定されていますが、概ね環境基準を満足しています。また、その他の支川については環境基準の指定がありませんが、本川の環境基準である A 類型相当の環境基準を満足しています。

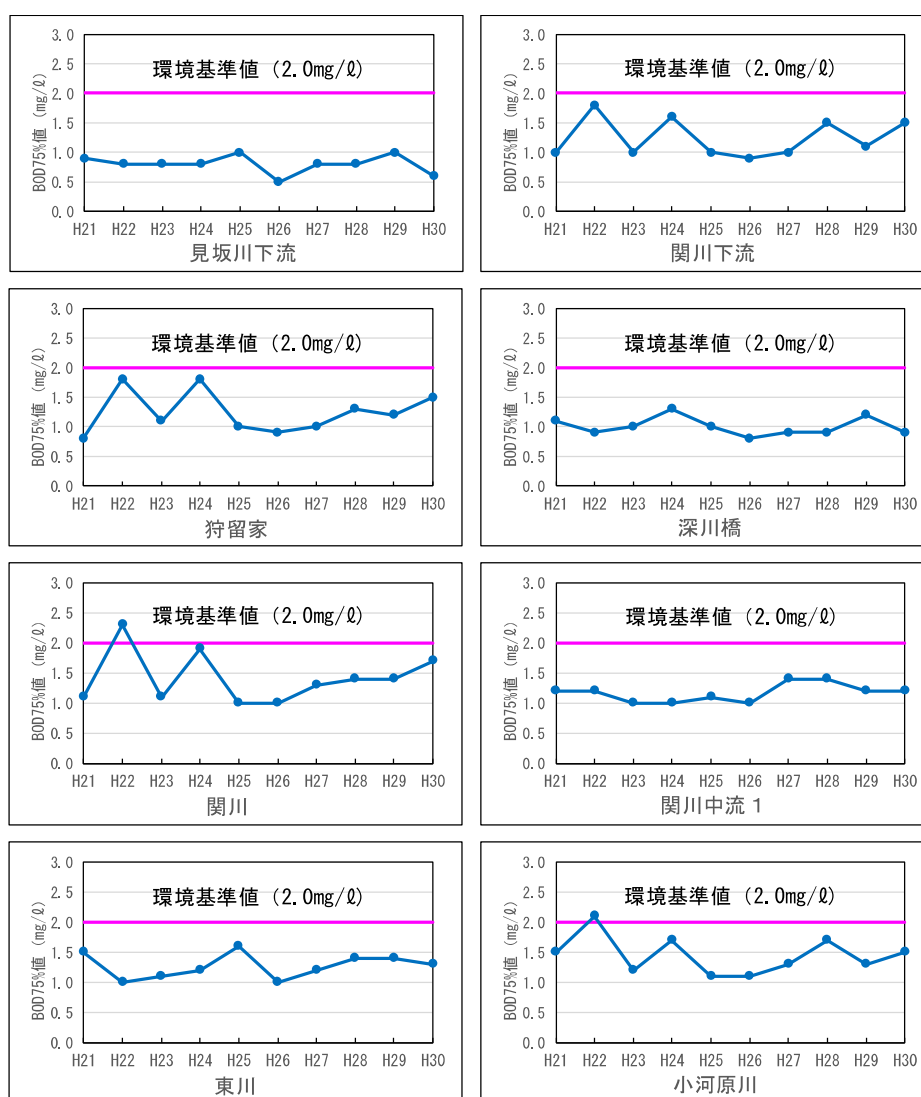


図-1.2.2 BOD (75%値)の推移

※ 出典：「公共用水域等の水質測定結果報告書」(H21～H30)

## ② 動植物

ブロック上流域は殆ど山地で溪流が存在し、魚類では清流を好むアマゴ、重要な種として三篠川にチュウガタスジシマドジョウ、有坂川にオヤニラミ、昆虫類では溪流に関わりのあるムカシトンボ、両生類では三篠川、見坂川等に国指定の特別天然記念物であるオオサンショウウオ等の生物が生息しています。植物としては鷹ノ巣山にモミ・ブナの混合林がみられます。

ブロック中流域も同様に山地で溪流が存在し、哺乳類ではニホンジカ、イノシシ、<sup>あらたに</sup>荒谷山にニホンザル、鳥類では川に関わりのあるタヒバリ、キセキレイ、重要な種として三篠川にイカルチドリ、ヤマセミ等、魚類ではカワヨシノボリ、タカハヤ等が広く生息し、重要な種として三篠川にオヤニラミ、スナヤツメ南方種、支川の溪流には清流を好むアカザ、アマゴ、イシドジョウ、昆虫類ではニホンカワトンボ、ハルゼミ等、支川の関川上流にはハグロトンボ、ミズカマキリ、重要な種としてヒメサナエ等、両生類ではブロック上流域と同様にオオサンショウウオが生息しています。植物では<sup>たけに</sup>竹仁のツクシヤクナゲ群落、<sup>しじひらやぶ</sup>志路平藪神社のシラカシ群落、<sup>かまくらじ</sup>鎌倉寺山の自然林（ウラジロガシ群落）などがみられます。また、河川区域内にはツルヨシ群落や竹林等がみられ、重要な種としてキシツツジ、カワヂシャ等が生育しています。

ブロック下流域は沿川の市街化により都市化が進んだ奥迫川、小河原川などが流れ、哺乳類では<sup>きのわね</sup>木ノ宗山にタヌキ、イノシシ、キツネ等、鳥類では川に関わりの深いカワセミ、キセキレイ等、重要な種としてハイタカ、魚類ではアブラボテ、カワヨシノボリ等、重要な種として三篠川にオヤニラミ、昆虫類ではニホンカワトンボ、ハルゼミ等が生息しています。植物としては白木山にアカガシが優占する二次林がみられ、山地から続くコナラ群落と河川の連続性が保たれている箇所もあります。

ブロック内は主に中山間地域の自然が比較的残されている河川で、山地からの連続性を確保し、動植物が生息・生育できる豊かな自然環境を後世に残していく必要があると考えられます。

また、多くの取水堰には魚道が設置されておらず魚類の遡上・降下をさまたげています。今後、動植物の生息・生育環境の保全が求められていることから、河川改修時等における魚道の設置が重要な課題と考えられます。

## ③ 河川空間及び利用状況

三篠川ブロックには良好な河川景観が残されており、JR芸備線中<sup>なかみた</sup>三田<sup>みた</sup>駅付近の三田小学校に面する川筋に「なめら」と呼ばれる岩盤が露出した瀬が存在し、また、JR芸備線上<sup>かみみた</sup>三田<sup>みた</sup>駅付近の河川屈曲地点にも、長い間の岩盤の侵食により落差のあるいく筋もの流れを形成している「<sup>とどろき</sup>轟<sup>せ</sup>の瀬」が存在しています。

河川利用としては、釣りや散歩等の利用が主なものですが、井原付近のハングライダーやパラグライダー、狩小川小学校横のかこがわ水辺の築校や向原の中心部からやや下流の農村交流館に接して造られている、階段状の親水護岸なども挙げられます。

半川では志和堀小学校を中心として「志和堀ホテルまつり」が行われています。

このような現況の河川状況を極力残すとともに、地域毎、河川毎の特性に配慮し、人々がふれあうことのできる高水敷等の河川整備が必要と考えられます。

#### ④ 歴史・文化財・伝統芸能

広島市の発展の礎は、天正 17 年 (1589)、中国山地のやまあいの吉田荘に居城を構えていた戦国の大名・毛利輝元が、太田川デルタに城を築き「広島」と命名したのにはじまり、江戸時代には福島氏、浅野氏の城下町として大いに栄えました。

三篠川の中流部に位置する広島市安佐北区白木町は、概ね古代の三田郷にあたります。三田郷は、古代律令制から中世荘園制へと移行する時期の土地の領有状況が把握できる地域として有名で、平安時代末期には、三田郷の一部が巖島神社の荘園となつたとされています。江戸時代には、三篠川や支川の栄堂川、関川、河津川などの豊かな河川の水を利用するため、井堰が数十箇所作られ、用水路が整備されました。現在の水利の配置は概ねこの時代に定まったと考えられています。

三篠川の上流部に今も残る高大地 湊跡は、三篠川舟運の最上流で物資の荷揚げ場である船着場として栄え、蔵や問屋などが建ち並び、近郷の年貢米や備北産の鉄等はこの湊から三田の久保浜（安佐北区白木町）まで送られ、積荷を移し替えて深川、広島へと順次輸送する仕組みとなっていました。なお、久保浜の上流にある轟の瀬は舟運の最大の難所であったとされています。

河川に関わりのある名所としては、安芸高田市向原町にある「分水界泣き別れ」と呼ばれる極めて珍しい平地の分水嶺があり、この分水嶺に降る雨は北に流れる江の川と南に流れる三篠川に分かれます。

伝統芸能では、安芸高田市向原町に伝わる舞殿での悪魔払いの「国貞山神社神儀」や、滝脇山円浄寺で年一回行われている「滝の観音祭り」などが地域の生活や祭りを通して保存されています。

このように、河川に関連して流域に伝えられ現存している文化等を将来に伝承していく取組が必要です。